



そとぼうチル・パラ

外房地域の子ども・子育て情報紙
チルパラひろば

2012年・2月13日 第16号
発行元 298-0003 いすみ市深堀 689-1
児童家庭支援センター TEL/FAX 0470-63-1919
e-mail koyamajikasen1919@bb.ne.jp

子山こども家庭支援センター
【HP】 <http://www.geocities.jp/koyamajikasen>
季刊誌(年4回発行) 発行部数約1万5千部
配布エリア いすみ市、船橋市、大多喜町、鎌ケ崎、一宮町、鎌沢町、長生村



鶴岡秀子さん
伊・レジェンドホテルズ&トラスト株式会社 代表取締役 CEO
大学卒業後大手流通業に入社、ファッションアドバイザーとして1人で20人分の売り上げを達成し経営、人事企画に挑戦。その後大手コンサルティングファーム、ITベンチャー企業経営を経て、夢であった「伝説のホテル」経営のための会社を設立。社会貢献企業という新たな企業概念は今後の経営に重要な指標として関心を高め、創業前に公開された雑誌に賛同した多くの親善のサポートで中絶のママでもあり、著書「10歳から起業するまで決めた」ダイヤモンド社、「人生を生きる夢の設計図の描き方」フォレスト出版、新刊2月未発表刊(小さな気分転換で大きく人生を変える方法)中絶出版、他
公式ブログ：鶴岡秀子の夢の設計図

人の幸せを願うことこそ幸せ

女性起業家 鶴岡秀子 さん

ギネス記録達成!

2012年1月30日、衆日本大会が発足した3月11日を境に、1日、一宮中学校のグラウンドは大きな感動に包まれました。なんと世界一が生まれたのです。1000人もの人が2人が三脚で200メートルを走り、ギネス記録として認められたのです。このイベントは東京のチャリティで、地元はもとより全国各地から、子ども大人も参加し、一宮町の五ノ川町長さんやチルパラも、いろいろんな人が協力してくれたのです。

こんなすごいことを考えたのが鶴岡さんです。被災地や日本中を元気づけたい、と思ったのです。「一人では何もできないけれど、みんなやるとすごいことが出来る」と決意が出来るほど感動しました。

世界のためにやる会社を作る

鶴岡さんはいすみ市町に今までの思いを全部こめて、ギネス記録のホルンを製作している。会社の社長さんです。それはどんなホルンなのでしょう？「伝説のホテルに由来するんです。世界の名だたるホテルで、ホルンには例え、遊戯に苦しみ出す人を救う、というように地元や日本を盛り立て、世界の問題を解決するための100個の課題を置いて、そこから会社が出来るようにしたり、ホルンで販売するアイテムを2件購入すると1冊はお金をなく、買っている国の子どもたちに届けられたり、治まった人が感謝を捧げたりするボランティアに参加できたり、そんな仕組みを想定しています。このホルンに由来すること、誰かの役に立てていると感じられる仕組みを立てていると思えます。

人は他人の役に立った時に 本当の幸せを感じられる

鶴岡さん、洋服店の店員さんでした。そしてなんと一歩目から、普通は20人の店員さんが売れる量の洋服を、たった一人で売り上げ、周りに驚かされたのです。その時に、たまたま売ったことではなく、お客様を喜ばせることに幸せを感じている自分に気付いたそうです。「人間は生まれながらに幸せを感じたいと思います。」「私には夢を抱くようになります。」「私の夢は、世界中のみんながもっと幸せを感じられるような世界に変えること。それも自分らしいやり方です。人は自分らしさを発揮できる時が成功した時だと思っています。無理をして、他人になる必要はない、そのままの自分、いいと思いませんか？」「そのためにはまず自分を好きになることが大事。」

生まれてきたけど十分

そんな鶴岡さんに子どもの頃のことを聞いてみました。「私の両親は100歳を取れば愛さないと、いい子でなければ愛さない」というので、生まれてきただけで十分と喜んでくれていた。だから、とっても安心していたし、時には両親を喜ばせることをやっていた。親の後日は自分らしいことを認めたい。自分が好きな顔は大人の特権の愛なのかと迷いませんね。

鶴岡さんは「千手後の地球のことを考えて、仕事をしたい」とおっしゃっていました。世界を幸せにしたいという純粋な思いは私たちに与えてくれます。



1006名全員がギネス記録の保持者なのだ!

生まれてきたけど十分

「ギネス記録達成!」

2012年1月30日、衆日本大会が発足した3月11日を境に、1日、一宮中学校のグラウンドは大きな感動に包まれました。なんと世界一が生まれたのです。1000人もの人が2人が三脚で200メートルを走り、ギネス記録として認められたのです。このイベントは東京のチャリティで、地元はもとより全国各地から、子ども大人も参加し、一宮町の五ノ川町長さんやチルパラも、いろいろんな人が協力してくれたのです。

こんなすごいことを考えたのが鶴岡さんです。被災地や日本中を元気づけたい、と思ったのです。「一人では何もできないけれど、みんなやるとすごいことが出来る」と決意が出来るほど感動しました。

世界のためにやる会社を作る

鶴岡さんはいすみ市町に今までの思いを全部こめて、ギネス記録のホルンを製作している。会社の社長さんです。それはどんなホルンなのでしょう？「伝説のホテルに由来するんです。世界の名だたるホテルで、ホルンには例え、遊戯に苦しみ出す人を救う、というように地元や日本を盛り立て、世界の問題を解決するための100個の課題を置いて、そこから会社が出来るようにしたり、ホルンで販売するアイテムを2件購入すると1冊はお金をなく、買っている国の子どもたちに届けられたり、治まった人が感謝を捧げたりするボランティアに参加できたり、そんな仕組みを想定しています。このホルンに由来すること、誰かの役に立てていると思えます。

人は他人の役に立った時に 本当の幸せを感じられる

鶴岡さん、洋服店の店員さんでした。そしてなんと一歩目から、普通は20人の店員さんが売れる量の洋服を、たった一人で売り上げ、周りに驚かされたのです。その時に、たまたま売ったことではなく、お客様を喜ばせることに幸せを感じている自分に気付いたそうです。「人間は生まれながらに幸せを感じたいと思います。」「私には夢を抱くようになります。」「私の夢は、世界中のみんながもっと幸せを感じられるような世界に変えること。それも自分らしいやり方です。人は自分らしさを発揮できる時が成功した時だと思っています。無理をして、他人になる必要はない、そのままの自分、いいと思いませんか？」「そのためにはまず自分を好きになることが大事。」

生まれてきたけど十分

そんな鶴岡さんに子どもの頃のことを聞いてみました。「私の両親は100歳を取れば愛さないと、いい子でなければ愛さない」というので、生まれてきただけで十分と喜んでくれていた。だから、とっても安心していたし、時には両親を喜ばせることをやっていた。親の後日は自分らしいことを認めたい。自分が好きな顔は大人の特権の愛なのかと迷いませんね。

鶴岡さんは「千手後の地球のことを考えて、仕事をしたい」とおっしゃっていました。世界を幸せにしたいという純粋な思いは私たちに与えてくれます。